

<<<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>>>>

元農病防第18850号
令和元年8月6日

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公印省略)

令和元年度病害虫発生予察注意報第2号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和元年度 病害虫発生予察注意報 第2号

1. 病害虫名 : **斑点米カメムシ類 (特にミナミアオカメムシ)**
2. 対象作物 : **水稲 (普通期栽培)**
3. 発生が予想される地域 : **県下全域**
4. 発生程度 : **多**
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 7月下旬の早・短期水稲での発生調査(調査対象種:ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ)では、本田における発生圃場率は94.4%(過去10か年平均:68.3%)、虫数は9.8頭(過去10か年平均:8.7頭)と過去10か年と比べやや多かった(第1表)。
 - 2) ミナミアオカメムシの7月下旬の早・短期水稲での発生調査では、本田における発生圃場率は16.7%(過去10か年平均:2.8%)、虫数は4.7頭(過去10か年平均:0.8頭)と過去10か年と比べ多かった(第2表)。
 - 3) 綾歌郡綾川町の予察灯における7月の誘殺数は、ミナミアオカメムシが107頭(過去8か年平均:37.8頭)と多かった(第1図)。
 - 4) 向こう1か月の気象は、気温が高く、降水量が平年並の予報であり、今後も発生が増加すると予想される。

第1表 早短期水稲の本田内での斑点米カメムシ類の発生状況¹⁾

年次	7月下旬	
	発生圃場率(%)	虫数 ²⁾
2009年	88.9	13.0
2010年	55.6	2.1
2011年	44.4	2.1
2012年	44.4	3.9
2013年	72.2	6.4
2014年	72.2	6.7
2015年	72.2	5.2
2016年	72.2	15.7
2017年	88.9	15.4
2018年	72.2	16.8
平均	68.3	8.7
2019年	94.4	9.8

1)18圃場において圃場ごとに本田内を20回、捕虫網ですくい取って調査。

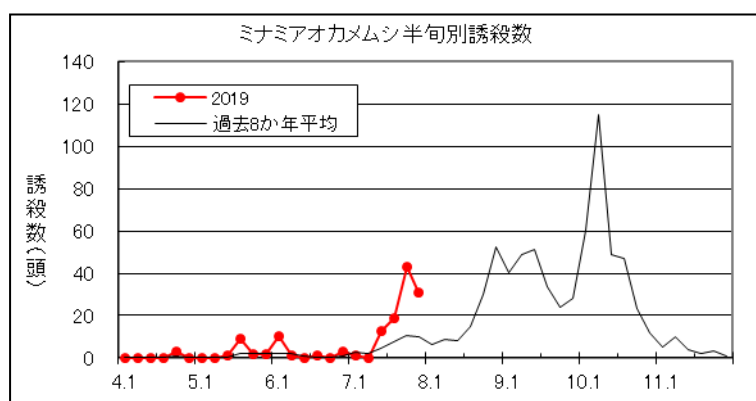
2)発生圃場における平均虫数

第2表 早短期水稲の本田でのミナミアオカメムシの発生状況¹⁾

年次	7月下旬	
	発生圃場率(%)	虫数 ²⁾
2009年	11.1	2.0
2010年	5.6	1.0
2011年	0.0	
2012年	5.6	1.0
2013年	0.0	
2014年	0.0	
2015年	0.0	0.0
2016年	0.0	
2017年	11.1	1.0
2018年	5.6	1.0
平均	3.9	1.0
2019年	16.7	4.7

1)18圃場において圃場ごとに本田を20回、捕虫網ですくい取って調査。

2)発生圃場における平均虫数



第1図 ミナミアオカメムシの高圧水銀灯での誘殺数の推移(綾歌郡綾川町)

6. 防除実施上の留意点

- 1) 畦畔等圃場周辺の除草を行い、カメムシ類の発生源を少なくする。ただし、出穂直前に行うと、カメムシ類の圃場への移動をうながすことになるので、雑草の刈り取りを行う場合は、出穂7～10日前に行う。また、休耕地はミナミアオカメムシの繁殖場所になるので、除草や耕起等によって雑草の少ない状態を保つ。
- 2) 薬剤防除の時期は、液剤や粉剤等の場合は出穂期頃とその10～15日後であり、粒剤の場合は7日程度早めて散布する。なお、穂揃期以降にミナミアオカメムシが水稻で繁殖している場合は、粒剤よりも速効的で効果が高いとされる液剤や粉剤の使用が望ましい。
- 3) 防除効果を高めるために地域一斉防除に努めるが、適用作物や収穫前日数などの使用基準を遵守する(第3表)。なお、休耕地に使用できる薬剤もある(第4表)。



写真1 ミナミアオカメムシの幼虫



写真2 ミナミアオカメムシの成虫

第3表 水稻の斑点米カメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準
(香川県農業情報システムより抜粋し、2019年8月6日現在の基準に改変)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード ¹⁾
スミチオン乳剤	1,000倍	2 1 / 2	MEP (フェニロキサ)	1B
スミバツサ乳剤 7 5	1,000倍	2 1 / 2	BPMC (フェノ ⁺ カルブ ⁺) MEP (フェニロキサ)	1A 1B
トレボン乳剤	2,000倍	1 4 / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	1 4 / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3 ~ 4 kg	7 / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
ベストガード粉剤DL	4 kg	1 4 / 4	ニテンピ ⁺ ラム	4A
ダントツ粒剤	3 ~ 4 kg	7 / 3	クロチアジ ⁺ ン	4A
ダントツフロアブル	5,000倍	7 / 3	クロチアジ ⁺ ン	4A
ダントツ粉剤DL	3 ~ 4 kg	7 / 3	クロチアジ ⁺ ン	4A
ダントツH粉剤DL	3 ~ 4 kg	7 / 3	クロチアジ ⁺ ン	4A
アルバリン粒剤	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル粒剤	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル液剤 1 0	1,000倍	7 / 3	ジノテフラン	4A
アルバリン粉剤DL	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル粉剤DL	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル豆つぶ	250 g	7 / 3	ジノテフラン	4A
キラップ粒剤	3 kg	1 4 / 2	イチ ⁺ ロール	2B
キラップフロアブル	1,000~2,000倍	1 4 / 2	イチ ⁺ ロール	2B
キラップ粉剤DL	3 ~ 4 kg	1 4 / 2	イチ ⁺ ロール	2B

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

第4表 休耕田のカメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準¹⁾
(香川県農業情報システムより抜粋し、2019年8月6日現在の基準に改変)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード ²⁾
スミチオン乳剤	1,000倍	— / 4	MEP (フェニロキサ)	1B
トレボン乳剤	2,000倍	— / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	— / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3 ~ 4 kg	— / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
ダントツ水溶剤	4,000倍	— / 4	クロチアジ ⁺ ン	4A
ダントツH粉剤DL	3 ~ 4 kg	— / 4	クロチアジ ⁺ ン	4A

1) ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田。

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう



6月～8月は、農薬危害防止運動月間です。
農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に
使用できているか、チェックしましょう。

病害虫防除所インターネットホームページ
URL: <http://www.jpnpn.ne.jp/kagawa/>